

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	人間関係とコミュニケーション			担当教員名	川村 亜希				
実務経験等	介護福祉士として、訪問介護、特別養護老人ホームに通算6年 介護福祉として介護現場の経験から、事例に基づき介護の実際や現場の課題について理解を深める授業を行う。										
年次	2学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の管理、改善、標準化に関する基本的な考え方とチームマネジメントの基礎的知識を理解する。</li> <li>・チームケアについて理解しリーダーシップ、フォロワーシップを身に付ける。</li> <li>・OJT・Off-JTをはじめとする人材育成のしくみを理解する。</li> </ul>										
使用教材	最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解（中央法規出版）					評価方法			筆記試験		
授業内容											
1	オリエンテーション					9	人材の育成と管理 キャリアパスとキャリアデザイン				
2	介護サービスの特徴					10	人材の育成と管理 OJTとOFF-JT				
3	チームマネジメントとは① 介護現場におけるマネジメントとチームマネジメント					11	自己研鑽とスーパービジョン				
4	チームマネジメントとは② 介護福祉士に期待される役割					12	チーム運営の基本 組織・法人の理解				
5	チームマネジメント ケアを展開するためのチームでの情報共有					13	チーム運営の基本 組織の管理				
6	リーダーシップとフォロワーシップ①					14	チーム運営の基本 災害管理・地域連携				
7	リーダーシップとフォロワーシップ②					15	試験対策 まとめ				
8	人材の育成と管理 キャリアイメージ										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	社会の理解			担当教員名	熊谷崇				
実務経験等	介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	個人が「自立した日常生活」を営むということを理解する。個人・家族・地域・社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。同時に我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自助・互助・共助・公助といった多元的かつ重層的な支援のあり方を学ぶ。</li> <li>・介護福祉に関する制度の大きな転換である社会福祉基礎構造改革、介護保険制度の設立といった背景を学び、基礎的知識を介護福祉実践に必要とされる観点から習得する。</li> <li>・介護実践に関連する諸制度の基礎知識を理解し、介護福祉士として必要な知識を習得する。</li> </ul>										
使用教材	最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解（中央法規出版）						評価方法	筆記試験 随時試験			
授業内容											
1	オリエンテーション					9	労働保険制度とは何か				
2	「家族介護」とは何か					10	措置制度とは何か				
3	私的扶養と公的扶養（社会保障制度）					11	高齢者福祉制度の変遷				
4	社会保障制度のしくみの基礎的理解①					12	社会福祉基礎構造改革とは何か				
5	社会保障制度のしくみの基礎的理解②					13	介護保険制度の理念と目的				
6	社会保障制度のしくみの基礎的理解③					14	地域共生社会とは何か①障害者権利条約とは何か				
7	医療保険制度とは何か					15	地域共生社会とは何か①障害者差別解消法とは何か				
8	年金保険制度とは何か										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護の基本Ⅰ				担当教員名	熊谷崇、野本 義則			
実務経験等		<p>野本先生：病院にて作業療法士として11年間常勤として勤務・介護老人保健施設にて作業療法士として3年間非常勤勤務及び1年間常勤勤務（入所リハビリテーション、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）。保健医療学博士。作業療法士として病院及び介護老人保健施設に従事した経験に基づき、コミュニケーション論、発達と老化の理解、障害の理解、介護の基本Ⅰについて講義を行う。</p> <p>熊谷先生：介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。</p>									
年次	2学年	開講期	後期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		<p>介護過程の考え方でもあるICFの概念を学びつつ、リハビリテーションの基本である「全人的復権」という考え方を理解し、また障害別のリハビリテーションの知識・専門用語を身につけることで、介護福祉士の立場でどのようにリハビリテーション関連職種と連携をとっていかを考えられることを目指す科目とする。</p>									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全人的復権を図る活動が本来のリハビリテーションであることを理解する。</li> <li>・リハビリテーションで用いる基本的用語を理解する。</li> <li>・各疾患のリハビリテーションについて理解する。</li> <li>・リハビリテーション介護技術の基本となる考え方を理解する。</li> </ul>									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（中央法規出版）					評価方法			筆記試験	
授業内容											
1	自立支援とは					9	リハビリテーション専門職（PT、OT、ST）				
2	自立支援とエンパワメント・ストレングス					10	障害の理解と評価 ADL QOL リハビリテーションにおける自立				
3	ICFとは 歴史・モデル					11	自立支援と介護予防				
4	ICFの良循環・悪循環					12	介護予防のサービスの種類と特徴				
5	介護実践にICFの視点を応用する					13	高齢者の身体特性と介護予防				
6	リハビリテーションの理念・歴史					14	介護予防の実際 介護予防における介護福祉士の役割				
7	リハビリテーションの目的と役割・体系					15	まとめ				
8	リハビリテーションの領域										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護の基本Ⅱ			担当教員名	川村 亜希				
実務経験等	介護福祉士として、訪問介護、特別養護老人ホームに通算6年介護福祉として介護現場の経験から、事例に基づき介護の実際や現場の課題について理解を深める授業を行う。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	利用者の安全かつ安心できる生活を確保し、信頼のおける介護の実現の為リスクマネジメントや感染症を学ぶ。更に介護従事者の健康管理等を学ぶことにより、心身共に健全な介護を提供する事を理解する学習とする。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の質の向上がリスクマネジメントにつながることを理解する。</li> <li>・介護福祉職だけでなく、他の専門職を含むチームでリスクに強い環境を整える重要性を理解する。</li> <li>・利用者のみならず介護従事者の安全・健康管理の重要性が理解できる。</li> <li>・介護事故・トラブルの様々な事例を理解し、発生原因とそれをどう防ぐかについて安全管理、危険管理の基本的な考え方と手法を理解する。</li> </ul>										
使用教材	最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ（中央法規出版）						評価方法	小テスト、レポート、筆記試験			
授業内容											
1	介護における安全の確保					9	事故報告書作成 ポイント、記録の重要性				
2	リスクマネジメントとは何か					10	事故報告書作成 ポイント、記録の重要性				
3	危険発見活動、KYT活動					11	事故報告書作成 原因分析の視点				
4	リスクマネジメントの考え方					12	事故報告書作成 原因分析の視点				
5	ヒヤリハット活動					13	事故報告書作成 具体的な再発防止策				
6	生活の中のリスクと対策					14	事故報告書作成 具体的な再発防止策				
7	転倒事故への対策					15	介護従事者の安全 感染症対策				
8	認知症利用者の事故										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	コミュニケーション技術				担当教員名	中込 慶太			
実務経験等	総合病院にて作業療法士として勤務。医療、介護、福祉領域と身体障害、精神障害、発達障害すべての臨床経験を積む。2018年以降は専門学校専任教員、複数の大学で非常勤職員として勤務し現在は企業に勤めながら教育活動を継続している。 これらの経験に基づき講義を行う。										
年次	2学年	開講期	後期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	介護現場で必要とされる人間関係形成のためのコミュニケーション技術を理解することにより、利用者にかかわる人たちと利用者の関係調整能力を習得する。また、コミュニケーション障害のある利用者を理解する視点を学び、利用者や家族との適切なコミュニケーションの実践、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を学ぶ。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者・家族・職員間・職種間等で、信頼関係を形成するための働きかけができる。</li> <li>・基本的なコミュニケーション技法を、介護場面に応じて使うことができる。</li> <li>・コミュニケーション障害のある利用者に対して不安・不快・不信感を抱かせない対応ができる。</li> <li>・チーム内の連携を促進するための基本的な行動ができる。</li> </ul>										
使用教材	最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術（中央法規出版）						評価方法	筆記試験			
授業内容											
1	コミュニケーションとは コミュニケーション障害の理解					9	介護におけるチームのコミュニケーションの実際：精神障害③				
2	面接 観察					10	介護におけるチームのコミュニケーションの実際：発達障害①				
3	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際：高齢者					11	介護におけるチームのコミュニケーションの実際：発達障害②				
4	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際：認知症					12	五感を用いたコミュニケーション 知的障害				
5	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際：高次脳機能障害					13	多職種とは 多職種協働におけるコミュニケーション				
6	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際：失語症・構音障害					14	研修・会議運営				
7	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際：精神障害①					15	研修・会議運営				
8	介護におけるチームのコミュニケーションの実際：精神障害②										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅱ				担当教員名	熊谷崇			
実務経験等	介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修（班別）
授業概要	尊厳が保持され、自立した日常生活の実現に向けて、根拠に基づいた介護実践を学ぶ。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。</li> <li>介護実践の根拠を理解する。</li> <li>介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。</li> <li>利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。</li> <li>利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。</li> </ul>										
使用教材	最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ（中央法規出版）						評価方法	筆記試験 実技試験 授業態度を総合的に評価する			
授業内容											
1	身じたくの介護①					9	実技試験・定期試験の説明 睡眠の介護①				
2	身じたくの介護②					10	睡眠の介護②				
3	ベッド上での着脱の介護①					11	終末期の介護①				
4	ベッド上での着脱の介護②					12	終末期の介護②				
5	安楽な姿勢保持①					13	実技試験と講評①				
6	安楽な姿勢保持②					14	実技試験と講評②				
7	入浴の介護①					15	前期のまとめ				
8	入浴の介護②										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅱ				担当教員名	熊谷崇			
実務経験等	介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。										
年次	2学年	開講期	後期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修（班別）
授業概要	尊厳が保持され、自立した日常生活の実現に向けて、根拠に基づいた介護実践を学ぶ。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。</li> <li>介護実践の根拠を理解する。</li> <li>介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。</li> <li>利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。</li> <li>利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。</li> </ul>										
使用教材	最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ（中央法規出版）						評価方法	実技試験・授業態度を総合的に評価する			
授業内容											
1	最新の排泄ケア用品への理解①					9	ICTを活用した生活支援①				
2	最新の排泄ケア用品への理解②					10	ICTを活用した生活支援②				
3	最新の高齢者の食事への理解①					11	応急手当の知識と技術①				
4	最新の高齢者の食事への理解②					12	応急手当の知識と技術②				
5	音楽を用いた生活支援①					13	生活支援技術の振り返り				
6	音楽を用いた生活支援②					14	実技試験				
7	災害時における生活支援①					15	後期のまとめ				
8	災害時における生活支援②										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅲ			担当教員名	福地 みか				
実務経験等	看護師として病院・障害者施設で勤務した経験を活かし、障害を理解し安全かつ適切な支援をするための知識、技術の習得を目的とした授業を行う。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	様々な障害（視覚障害、聴覚障害、盲ろう、運動障害、内部障害、高次脳機能障害、難病）のある方の身体的・心理的な生活上の困りごとを理解し、その障害のある方に応じた生活支援技術を学ぶ。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害や疾病のある方の、身体的・心理的な生活上の困りごとについて理解を深めることができる。</li> <li>・障害や疾病のある方に応じた生活支援技術の根拠を理解することができる。</li> <li>・障害や疾病のある方の生活上の困りごとを改善するため、介護福祉士としての役割を理解することができる。</li> </ul>										
使用教材	最新・介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ（中央法規出版）						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは 肢体不自由の理解					9	腎臓機能障害に応じた介護（腎臓機能障害の理解）				
2	肢体不自由に応じた介護（脊髄損傷、生活上の困りごと、支援）					10	腎臓機能障害に応じた介護（生活上の困りごと、支援）				
3	肢体不自由に応じた介護（片麻痺、脳性麻痺、生活上の困りごと、支援）					11	膀胱・直腸機能障害に応じた介護（膀胱・直腸障害の理解）				
4	視覚障害に応じた介護（視覚障害の理解、生活上の困りごと、支援）					12	膀胱・直腸機能障害に応じた介護（生活上の困りごと、支援）				
5	聴覚・言語障害に応じた介護（聴覚障害・言語障害の理解、生活上の困りごと、支援）					13	高次脳機能障害に応じた介護				
6	重複障害に応じた介護（重複障害の理解、生活上の困りごと、支援）					14	パーキンソン病に応じた介護				
7	心臓機能障害に応じた介護（心臓機能障害の理解）					15	悪性関節リウマチに応じた介護				
8	心臓機能障害に応じた介護（生活上の困りごと、支援）										
特記事項	各回終了時、振り返りとミニテストを実施。										

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅲ（2年後期）				担当教員名	福地 みか			
実務経験等		看護師として病院・障害者施設に勤務した経験を活かし、障害を理解し安全かつ適切な支援をするための知識、技術の習得を目的とした授業を行う。									
年次	2学年	開講期	後期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		様々な障害（運動障害、内部障害、知的障害、精神障害、発達障害、重症心身障害、難病）のある方の身体的・心理的な生活上の困りごとを理解し、その障害のある方に応じた生活支援技術を学ぶ。									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害や疾病のある方の、身体的・心理的な生活上の困りごとについて理解を深めることができる。</li> <li>・障害や疾病のある方に応じた生活支援技術の根拠を理解することができる。</li> <li>・障害や疾病のある方の生活上の困りごとを改善するため、介護福祉士としての役割を理解することができる。</li> </ul>									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ（中央法規出版）				評価方法		筆記試験			
授業内容											
1	呼吸機能障害に応じた介護（呼吸機能障害の理解）					9	重症心身障害に応じた生活支援の実際				
2	呼吸機能障害に応じた介護（生活上の困りごと、支援）					10	知的障害に応じた介護				
3	肝臓機能障害に応じた介護（肝臓機能障害の理解）					11	精神障害に応じた介護				
4	肝臓機能障害に応じた介護（生活上の困りごと、支援）					12	発達障害に応じた介護				
5	小腸機能障害に応じた介護（小腸機能障害の理解）					13	筋萎縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護				
6	小腸機能障害に応じた介護（生活上の困りごと、支援）					14	難病（筋ジストロフィー）に応じた介護				
7	HIVによる免疫機能障害に応じた介護					15	振り返り、まとめ				
8	重症心身障害に応じた介護（重症心身障害の理解、生活上の困りごと、支援）										
特記事項		各回終了時、振り返りとミニテストを実施。									

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護過程				担当教員名	神田 菜智			
実務経験等		介護福祉士として認知症型グループホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、小規模多機能型居宅介護支援事業所において通算6年の実務経験を有する。基本的知識及び今までの経験に基づき、介護現場の実際や課題について自ら考え、動くことができる人材育成に向けた授業を行う。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修(班別)
授業概要		事例をもとにした介護過程の展開及び多職種によるチームアプローチのあり方を理解するために、介護過程の展開に関するより実践的な知識を学ぶ。									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の展開について具体的な実施の事例を通して理解する。</li> <li>介護過程による介護計画とケアマネジメントの違いを知る。</li> <li>ICFの概念を取り入れ、利用者の潜在能力を引き出し活用・発揮することの意義について理解できる。</li> <li>自立度や生活の場に応じた介護・医療・保健との連携協働を要とする介護、終末期における介護の展開など、様々な利用者の状況に応じた介護過程の展開を理解できる。</li> </ul>									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 (中央法規出版)					評価方法		レポート 授業態度		
授業内容											
1	介護過程の概要 (復習)					9	事例検討会の説明				
2	介護過程の概要 (復習)					10	事例検討 (グループ内検討)				
3	アセスメント (実習Ⅱ-①事例)					11	事例検討 (グループ内検討)				
4	アセスメント (実習Ⅱ-①事例)					12	事例検討 (グループ内検討)				
5	目標 (実習Ⅱ-①事例)					13	事例検討会準備				
6	計画 (実習Ⅱ-①事例)					14	事例検討会準備				
7	計画 (実習Ⅱ-①事例)					15	事例検討会①				
8	計画 (実習Ⅱ-①事例)					16	事例検討会②				
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護過程				担当教員名	神田 菜智、熊谷崇			
実務経験等		<p>神田先生：介護福祉士として認知症型グループホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、小規模多機能型居宅介護支援事業所において通算6年の実務経験を有する。基本的知識及び今までの経験に基づき、介護現場の実際や課題について自ら考え、動くことができる人材育成に向けた授業を行う。</p> <p>熊谷先生：介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。</p>									
年次	2学年	開講期	後期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修（班別）
授業概要		事例をもとにした介護過程の展開及び多職種によるチームアプローチのあり方を理解するために、介護過程の展開に関するより実践的な知識を学ぶ。									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の展開について具体的な実施の事例を通して理解する。</li> <li>・介護過程による介護計画とケアマネジメントの違いを知る。</li> <li>・ICFの概念を取り入れ、利用者の潜在能力を引き出し活用・発揮することの意義について理解できる。</li> <li>・自立度や生活の場に応じた介護、他職種との連携を要とする介護等、様々な利用者の状況に応じた介護過程の展開を理解できる。</li> </ul>									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座9 介護過程（中央法規出版）				評価方法		課題の提出状況・レポート・事例報告会における発表の評価			
授業内容											
1	ケーススタディ① 事例の整理①				9	ケーススタディ③ 事例のまとめ③					
2	ケーススタディ② 事例の整理②				10	ケーススタディ④ 事例のまとめ④					
3	ケーススタディ③ 事例の整理③				11	ケーススタディ⑤ 事例のまとめ⑤					
4	ケーススタディ④ 事例の整理④				12	ケーススタディ⑥ 事例のまとめ⑥					
5	グループワーク① 事例検討①				13	ケーススタディ⑦ 事例のまとめ⑦					
6	グループワーク② 事例検討②				14	ケーススタディ⑧ 事例のまとめ⑧					
7	ケーススタディ① 事例のまとめ①				15	事例報告会					
8	ケーススタディ② 事例のまとめ②										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護総合演習 通年				担当教員名	福地 みか、熊谷崇			
実務経験等		福地先生：看護師として病院、障害者施設に勤務した経験を活かした授業を行う。 熊谷先生：介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。									
年次	2学年	開講期	通年	種別	演習	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		介護実習の教育効果を向上させるため、事前及び事後学習並びに実習期間中の実践的指導を通じて、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じて総合的に学ぶ。									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習の重要性について理解できる。</li> <li>・介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備ができる。</li> <li>・介護実習を通じて学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ実際に理解できるようになる。</li> <li>・習得した学内諸学習を応用し、実践的な技術等を身につけられる。</li> <li>・介護福祉士としての自覚ができ、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応力を取得できる。</li> </ul>									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規）					評価方法		課題の提出状況、授業態度		
授業内容											
1	実習Ⅱ-① 振り返り①					16	実習Ⅱ-②オリエンテーション				
2	在宅における介護とは何か					17	実習状況に関する個別指導 帰校日①				
3	地域包括ケアの概要と実際					18	実習状況に関する個別指導 帰校日①				
4	実習Ⅰ-③の目的と意義					19	実習状況に関する個別指導 帰校日②				
5	訪問入浴の実際					20	実習状況に関する個別指導 帰校日②				
6	実習Ⅰ-③のプロセスと留意点					21	実習状況に関する個別指導 帰校日③				
7	実習Ⅱ-① 振り返り②					22	実習状況に関する個別指導 帰校日③				
8	実習Ⅱ-② 実習の概要①					23	実習Ⅱ-② 振り返り①				
9	実習Ⅱ-② 実習の概要②					24	実習Ⅱ-② 振り返り②				
10	実習Ⅱ-② 実習目標					25	介護福祉に関する多業種の参画と福祉器具の動向と実際①				
11	実習Ⅱ-② 実習の心構え①					26	介護福祉に関する多業種の参画と福祉器具の動向と実際②				
12	実習Ⅱ-② 実習の心構え①					27	介護実践の科学的探究・発表①				
13	実習Ⅰ-③ 振り返り					28	介護実践の科学的探究・発表②				
14	実習Ⅱ-②のプロセスと留意点					29	介護実践の科学的探究・発表③				
15	実習Ⅱ-② オリエンテーション①					30	介護福祉士の今後の展望				
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護実習Ⅱ				担当教員名	介護 専任			
実務経験等		福地先生：看護師として病院、障害者施設に勤務した経験を活かした授業を行う。 熊谷先生：介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。									
年次	2学年	開講期	通年	種別	外部実習	時間数	216時間	単位数	5単位	区分	必修
授業概要		在宅における生活支援のあり方、並びに及び施設における個別ケア及び介護過程の展開の実践を通じて、個人の尊厳と自立を支えるケアのあり方を学ぶ。									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・受容、共感的態度を基盤に、利用者との個別的なかかわりを深める。</li> <li>・利用者の全体像をとらえ、個別の介護ニーズを把握できる。</li> <li>・利用者に適した介護方法を考え、適切な介護を実践できる。実施した介護方法を考察し、評価できる。</li> <li>・1人の利用者の全体像をとらえ、介護過程をより深めて展開できる。研究的態度を養う。</li> </ul>									
使用教材						評価方法	実習指導者評価、提出物の提出状況、実習態度を総合的に評価する				
授業内容											
実習Ⅰ－③（2日間） 介護及び訪問入浴事業所において、在宅における利用者像を理解し生活支援のあり方を理解する実習										訪問	
実習Ⅱ－②（25日間） 利用者の心身の状況に応じた生活支援技術、介護過程の実践的展開、多職種との連携を通じた根拠に基づいた介護への理解を深める実習											
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	発達と老化の理解				担当教員名	野本 義則			
実務経験等	病院にて作業療法士として11年間常勤として勤務・介護老人保健施設にて作業療法士として3年間非常勤勤務及び1年間常勤勤務（入所リハビリテーション、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）。保健医療学博士。作業療法士として病院及び介護老人保健施設に従事した経験に基づき、コミュニケーション論、発達と老化の理解、障害の理解、介護の基本Ⅰについて講義を行う。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	人間の成長と発達の基礎的な理解のために誕生から死に至るまでの心身の発達や成長、成熟、生理的変化を学ぶ。あわせて、高齢者が障害を受けた後、受容していく心理も学ぶ。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老化に伴う身体的な変化と生活への影響について理解する。</li> <li>・老化に伴った高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点について理解できる。</li> <li>・保健医療職との連携のあり方について理解する。</li> </ul>										
使用教材	最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解（中央法規出版）						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	コースオリエンテーション、人間の成長と発達の基礎知識					9	高齢者に多い疾患 循環器系①				
2	発達理論 発達段階と発達課題					10	高齢者に多い疾患 循環器系①				
3	発達段階と発達課題 老年期の発達課題					11	高齢者に多い疾患 呼吸器系				
4	身体的機能の成長と発達					12	高齢者に多い疾患 統合失調症				
5	心理的機能の発達					13	高齢者に多い疾患 気分障害 うつ病				
6	社会的機能の発達					14	高齢者に多い疾患 その他				
7	高齢者に多い疾患 骨格系 関節運動 高齢者に多い骨折					15	保健医療職との連携				
8	高齢者に多い疾患 骨格系 骨粗しょう症 OA RA 脊髄損傷										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	認知症の理解				担当教員名	松橋 あけみ			
実務経験等	<p>デイサービスにて相談員として6年、地域包括支援センターに社会福祉士として11年勤務。社会福祉士として相談業務にあっていた経験から、高齢になっても、障害があったとしても住み慣れた地域で生活していく為に必要な支援等について理解を深める授業を行う。</p>										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	<p>利用者個々の特性を踏まえた適切なケアを提供するための知識や支援方法、地域で生活する認知症のある人とその家族の支援体制のあり方、多職種連携・協働のあり方について学ぶ。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。</li> <li>・ 認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。</li> </ul>										
使用教材	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解（中央法規出版）						評価方法	小テスト・レポート・筆記試験			
授業内容											
1	・ 認知症の理解②の概要説明☑1年次のレビュー（症状、疾患、治療や予防など）					9	・ 認知症の人への様々なアプローチ（ユマニチュード、バリデーション）				
2	・ パーソン・センタード・ケア・「聞く」「集める」「見つける」の3つのステップ					10	・ 回想法、その他・認知症の人の終末期利用と介護・環境づくり				
3	・ 第1節のレビュー・ビデオワーク					11	・ 家族への支援				
4	・ 認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール					12	・ 家族への支援・ビデオ				
5	・ ひもときシート演習					13	・ 介護福祉職への支援				
6	・ 認知症の人とのコミュニケーション					14	・ 地域包括ケアシステムにおける認知症ケア				
7	・ 認知症の人へのケア（食事、排泄、入浴、清潔保持、休息と睡眠）					15	・ 多職種連携と協働				
8	・ 認知症の人へのケア（活動・生きがい BPSD）										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	障害の理解				担当教員名	野本 義則			
実務経験等	病院にて作業療法士として11年間常勤として勤務・介護老人保健施設にて作業療法士として3年間非常勤勤務及び1年間常勤勤務。保健医療学博士。作業療法士として病院及び介護老人保健施設に従事した経験に基づき、コミュニケーション論、発達と老化の理解、障害の理解、介護の基本Ⅰについて講義を行う。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	障害のある人の心理や身体的機能に関する基礎的知識を習得する。障害のある人の状況・状態に合わせた介護の視点、本人のみならず家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を習得する。また、対象者・その家族の支援のため、他職種と連携できる能力を習得する。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人の心理や身体的機能に関する基礎的知識を習得する。</li> <li>・障害のある人の状況・状態に合わせた介護の視点、本人のみならず家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を習得する。</li> <li>・対象者・その家族の支援のため、他職種と連携できる能力を身につける。</li> </ul>										
使用教材	最新・介護福祉士養成講座14 障害の理解（中央法規出版）						評価方法	筆記試験			
授業内容											
1	1-1障害の概念 障害の捉え方 ICIDHとICF					9	2-2肢体不自由③ 障害の原因となるおもな疾患の理解 SCI 脊髄小脳変性症 切断				
2	1-1障害の概念 ICF 情報整理演習 3.4.障害者の概数 定義					10	2-3視覚障害				
3	1-2障害者福祉の基本理念					11	2-4聴覚言語障害				
4	1-3障害者福祉に関連する制度					12	2-5重複障害				
5	1-4障害者福祉制度と介護保険制度					13	2-6内部障害① 心臓機能障害 呼吸機能障害 HIV				
6	2-1障害のある人の心理①人間の欲求 適応機制 障害受容の過程 心理的支援の方法					14	2-6内部障害② 腎・膀胱直腸・小腸・肝臓機能				
7	2-2肢体不自由① 総論1-4と8					15	2-7重症心身障害				
8	2-2肢体不自由② 障害の原因となるおもな疾患の理解 CP CVA 筋ジス										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	障害の理解				担当教員名	野本 義則			
実務経験等	病院にて作業療法士として11年間常勤として勤務・介護老人保健施設にて作業療法士として3年間非常勤勤務及び1年間常勤勤務。保健医療学博士。作業療法士として病院及び介護老人保健施設に従事した経験に基づき、コミュニケーション論、発達と老化の理解、障害の理解、介護の基本Ⅰについて講義を行う。										
年次	2学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	障害のある人の心理や身体的機能に関する基礎的知識を習得する。障害のある人の状況・状態に合わせた介護の視点、本人のみならず家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を習得する。また、対象者・その家族の支援のため、他職種と連携できる能力を習得する。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人の心理や身体的機能に関する基礎的知識を習得する。</li> <li>・障害のある人の状況・状態に合わせた介護の視点、本人のみならず家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を習得する。</li> <li>・対象者・その家族の支援のため、他職種と連携できる能力を身につける。</li> </ul>										
使用教材	最新・介護福祉士養成講座14 障害の理解（中央法規出版）						評価方法	筆記試験			
授業内容											
1	3-1知的障害					9	3-5難病②				
2	3-2精神障害① 総論					10	4-1地域のサポート体制				
3	3-2精神障害② 疾患別特徴 統合失調症 気分障害 薬物依存					11	4-2チームアプローチ①				
4	3-3高次脳機能障害① 総論					12	4-2チームアプローチ②				
5	3-3高次脳機能障害② 障害の原因 特徴					13	5-1家族への支援とは				
6	3-4発達障害					14	5-1家族への支援とは				
7	3-4発達障害					15	5-2家族の介護力の評価と負担の軽減				
8	3-5難病①										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	医療的ケア			担当教員名	福地 みか				
実務経験等	看護師として病院、障害者施設に勤務した経験を活かし、医師の指示の下、安全かつ適切な医療的ケアの実施ができる為の基礎知識、技術の習得を目的とした授業を行う。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	50時間	単位数	3単位	区分	必修
授業概要	介護福祉士が医療的ケアを安全に実施するための基礎知識、喀痰吸引（口腔、鼻腔、気管カニューレ内部）、経管栄養（胃ろう・腸ろう、経鼻）に関する基礎的知識、実施手順と留意点について学習。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケアを安全に実施するために必要なリスクマネジメント、感染予防、健康状態の把握について理解することができる。</li> <li>・医療的ケアが必要な人の生活・状況に応じ、安全に喀痰吸引、経管栄養を実施するための基礎を理解することができる。</li> </ul>										
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア（中央法規出版）						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	医療的ケア、医行為とは					9	消毒・滅菌・手洗い・うがい・マスク				
2	介護福祉士における喀痰吸引等制度とその背景					10	健康状態の把握				
3	その他の制度					11	観察・バイタルサイン測定				
4	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施					12	喀痰吸引の基礎的知識（呼吸のしくみと働き）				
5	リスクマネジメント、ヒヤリハット・アクシデント					13	喀痰吸引の基礎的知識（痰の貯留を示す状態）				
6	救急蘇生とその実際（気道確保）					14	喀痰吸引とは（心理状態・リスク、方法）				
7	救急蘇生とその実際（AED）					15	人工呼吸器と吸引				
8	感染予防、環境整備					16	子どもの吸引				
特記事項	各回終了時、振り返りとミニテストを実施。										

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	医療的ケア演習			担当教員名	福地 みか				
実務経験等	看護師として病院に勤務した実務経験を活かし、医師の指示の下、安全かつ適切な医療的ケアの実施ができる為の基礎知識、技術の習得を目的とした授業を行う。										
年次	2学年	開講期	後期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修(班別)
授業概要	<p>①喀痰吸引・経管栄養は医行為であることを踏まえ、基礎的な知識・技術を習得し安全かつ確実に医療的ケア5項目の演習をする。          喀痰吸引(口腔、鼻腔、気管カニューレ内部)、経管栄養(胃ろう・腸ろう、経鼻)</p> <p>②一次救命処置、AEDを用いた救急蘇生法の演習</p>										
到達目標	<p>①基礎的な知識・技術を習得し、手順に応じて安全に医療的ケア5項目を各5回以上実施し、5項目全て合格することができる。          喀痰吸引(口腔 5回以上、鼻腔 5回以上、気管カニューレ内部 5回以上)          経管栄養(胃ろう・腸ろう 5回以上、経鼻 5回以上)</p> <p>②一次救命処置の必要性を理解し、蘇生ガイドラインに沿って、AEDを用いた救急蘇生を実施することができる。</p>										
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア(中央法規出版)					評価方法			実技		
授業内容											
1	喀痰吸引(口腔内) 1				9	喀痰吸引(気管カニューレ内部) 3					
2	喀痰吸引(口腔内) 2				10	経管栄養(胃ろう又は腸ろう) 1					
3	喀痰吸引(口腔内) 3				11	経管栄養(胃ろう又は腸ろう) 2					
4	喀痰吸引(鼻腔内) 1				12	経管栄養(経鼻) 1					
5	喀痰吸引(鼻腔内) 2				13	経管栄養(経鼻) 2					
6	喀痰吸引(鼻腔内) 3				14	救急蘇生法1					
7	喀痰吸引(気管カニューレ内部) 1				15	救急蘇生法2					
8	喀痰吸引(気管カニューレ内部) 2										
特記事項											

2025年度 授業要綱

湘南医療福祉専門学校

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	湘南総合ゼミ（点字）			担当教員名	伏見 日出夫				
実務経験等	鍼灸マッサージの会社経営とともに、あはき師として様々な老人ホームなどに訪問施術を行う。盲学校での勤務時、授業や国家試験において点字使用者に対する助言、指導を行っていた経験をもとに点字ならびに視覚障害者への理解を深めていただく授業を行う。										
年次	2学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	20時間	単位数		区分	必修
授業概要	介護福祉職として長期的に活躍するための、自己管理の1つとして、自身の身体のケアを自分自身で行う方法を学ぶ。 利用者には聴覚・視覚障害等があり、手話・点字を介してコミュニケーションをとる方も含まれる。それぞれの特性や留意点を理解し、簡単なコミュニケーションやあいさつ程度の技術を習得する。										
到達目標	点字を用いた基本的なコミュニケーションができる。										
使用教材	初めての点訳 全国視覚障害者情報提供施設協会					評価方法			筆記試験		
授業内容											
1	点字の歴史、概要器具の紹介、点字表記					9	点字の表記 固有名詞、数字、アルファベット				
2	点字の表記 かなづかい					10	総まとめ 「書き方の実際」を含む				
3	点字の表記 かなづかい、分かち書き、記号類										
4	点字の表記 かなづかい、分かち書き、記号類										
5	点字の表記 かなづかい、分かち書き、記号類										
6	点字の表記 複合語										
7	点字の表記 複合語										
8	点字の表記 固有名詞、数字、アルファベット										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	湘南ゼミ（手話）			担当教員名	島野 紫都、小出 裕子				
実務経験等	平成16年から入門、基礎、応用の手話指導及び手話通訳者養成に携わる。 聴覚障害のため手話通訳者同伴。										
年次	2学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	20時間	単位数		区分	必修
授業概要	介護福祉職として長期的に活躍するための、自己管理の1つとして、自身の身体のケアを自分自身で行う方法を学ぶ。 利用者には聴覚・視覚障害等があり、手話・点字を介してコミュニケーションをとる方も含まれる。それぞれの特性や留意点を理解し、簡単なコミュニケーションやあいさつ程度の技術を習得する。										
到達目標	手話を用いた基本的なコミュニケーションができる。										
使用教材	各回プリント配布						評価方法	実技試験（自己紹介）と筆記試験			
授業内容											
1	オリエンテーション・聞こえないとは？手話であいさつ					9	動詞・感情				
2	指文字・名前					10	介護に関する単語、例文				
3	DVD鑑賞「災害時の障害者」										
4	趣味（好き・嫌い）										
5	数字・誕生日										
6	家族										
7	住所・道府県										
8	自己紹介・時制・クリスマス歌										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	湘南ゼミ（セルフマッサージ）			担当教員名	君嶋 真理子				
実務経験等	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として40年以上の臨床経験がある。豊富な知識と経験、技術を活かした授業を行う。										
年次	2学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	20時間	単位数		区分	必修
授業概要	介護福祉職として長期的に活躍するための、自己管理の1つとして、自身の身体のケアを自分自身で行う方法を学ぶ。 利用者には聴覚・視覚障害等があり、手話・点字を介してコミュニケーションをとる方も含まれる。それぞれの特性や留意点を理解し、簡単なコミュニケーションやあいさつ程度の技術を習得する。										
到達目標	基本的なセルフマッサージを理解できる。										
使用教材	プリント配布					評価方法		筆記試験			
授業内容											
1	ガイダンス・東洋医学とは				9	下肢あんま					
2	東洋医学とは・座位あんま				10	復習・テスト対策					
3	座位あんま										
4	足つぼマッサージ										
5	足つぼマッサージ										
6	上肢あんま										
7	上肢あんま										
8	下肢あんま										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	特別活動				担当教員名		福地 みか、熊谷崇		
実務経験等		福地先生：看護師として病院、障害者施設に勤務した経験を活かした授業を行う。 熊谷先生介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		社会人になるためのマナーの理解及び学校行事等への参加を通じて他者との協働のあり方を学ぶ。									
到達目標		社会人教育の一環として、学校行事や外部への見学等の活動を通じ、社会性・協調性を理解できる。									
使用教材								評価方法		出席状況 参加姿勢により評価	
授業内容											
1	オリエンテーション					9	行事を通じた他者とのコミュニケーション②				
2	介護福祉士国家試験模擬試験①					10	就職活動の進め方①				
3	介護福祉士国家試験模擬試験①					11	就職活動の進め方②				
4	介護福祉士国家試験の概要					12	介護福祉士国家試験模擬試験②				
5	介護福祉士国家試験受験までの計画の立案					13	介護福祉士国家試験模擬試験②				
6	介護福祉士国家試験に向けた自己学習の進め方					14	就職ガイダンス①				
7	ICTの活用・ICTリテラシー					15	就職ガイダンス②				
8	行事を通じた他者とのコミュニケーション①										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	特別活動				担当教員名	福地 みか、熊谷崇			
実務経験等		福地先生：看護師として病院、障害者施設に勤務した経験を活かした授業を行う。 熊谷先生：介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。									
年次	2学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		社会人になるためのマナーの理解及び学校行事等への参加を通じて他者との協働のあり方を学ぶ。									
到達目標		社会人教育の一環として、学校行事や外部への見学等の活動を通じ、社会性・協調性を理解できる。									
使用教材							評価方法		出席状況 参加姿勢により評価		
授業内容											
1	介護福祉士国家試験の出願に向けて①					9	介護福祉士国家試験模擬試験③				
2	介護福祉士国家試験の出願に向けて②					10	介護福祉士国家試験模擬試験③				
3	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働①					11	事例報告会の企画・運営①				
6	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働②					12	事例報告会の企画・運営②				
4	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働③					13	介護福祉国家試験の振り返り				
5	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働④					14	2年間の学びの振り返り①				
7	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働⑤					15	2年間の学びの振り返り②				
8	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働⑥										
特記事項											